

AIと図書館で描く未来

～図書館でのAI活用提案～ 



AI司書SHIORIちゃん

第27回図書館総合展

 2025年10月22日（水）

 12:15～12:45

 パシフィコ横浜・丸善雄松堂ブース

 藤村明人

 合同会社SEKITOBA 代表

みなさん、こんにちは。合同会社SEKITOBAの藤村明人と申します。

本日は「AIと図書館で描く未来」というテーマで、30分ほどお時間をいただきました。

AI技術が急速に発展する中、図書館という知の拠点がどのように変わっていくのか、また私たちが開発したAI司書「SHIORI」の取り組みを通して、これからの可能性についてお話させていただきます。

Section 1

オープニング：AIへの不安



? AIに対するイメージ・不安

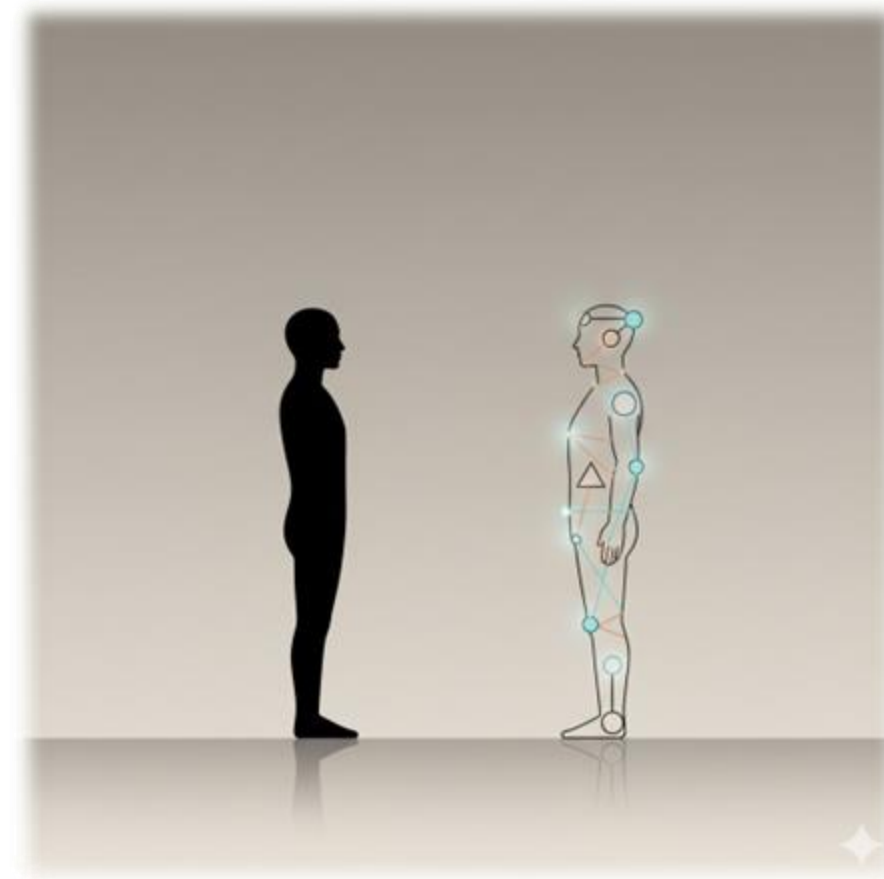
皆さんはAIと聞いて、どのようなイメージをお持ちでしょうか？

「AIが人の仕事を奪うのでは？」

「AIの情報は信頼できるのか？」

「司書の仕事がなくなってしまうのでは？」

こうした不安や疑問を感じている方も多いのではないのでしょうか。



全国の図書館を訪問し、AI司書「SHIORI」を開発・提供する
中で、現場から多く寄せられる懸念の声:

- 「AIが司書の仕事を奪ってしまうのではないか」
- 「AIの情報は本当に信頼できるのか」
- 「利用者が司書に相談せず、AIだけに頼るようになるのでは」

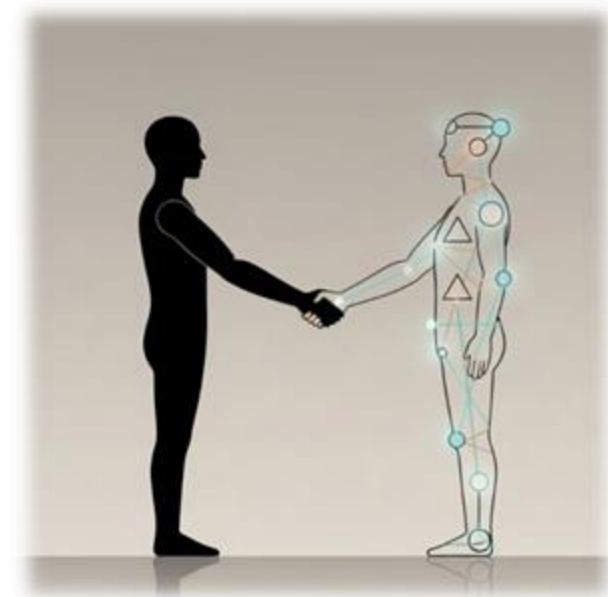


AIに対する不安の声をよく聞きます。しかし...

むしろAIは司書にとって良きパートナーになる可能性があります。

AIが司書の仕事を奪うのではなく、司書の専門性を引き出し、新しい能力を拡張する。

そのような可能性のヒントを、私たちの取り組みを通じてご紹介します。



◎ 本日本伝えたいこと

≡ **職員の業務負担** でお悩みの方には、少しでも改善のヒントになれば。

🎓 **学生の図書館離れ** でお困りの方には、一つの取り組み事例として。

⚙️ **差別化の方法** をお探しの方には、参考になるかもしれない試みを。

🏠 **地域活性化** を模索されている方には、小さな可能性の一つを。

私たちの経験が、少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

図書館は単なる本の貸出施設ではありません。

地域の知的インフラとして、コミュニティの核となる存在です。

今、図書館は大きな転換期

 若年層の図書館離れ

 職員の業務過多

 複合施設化による役割拡大

AIがもたらす可能性

 業務負担の軽減

 新しい利用者層の開拓

 地域をつなぐプラットフォームへ

Section 2



自己紹介：なぜ図書館×AIか

バックグラウンドとAI司書誕生のきっかけ

合同会社SEKITOBA 代表 藤村明人

IT系コンサルティング会社

データサイエンティストとして
AI研究・DXプロジェクト担当

住友商事

AI研究員として、各事業部でのAI導入プロジェクト

2023年7月 独立

合同会社SEKITOBA創業

AIを正しく良き方向へ
社会実装して
豊かな未来を創造する



「本当にAIが必要な業界、まだAIが浸透して
いない分野にこそ、**AIの可能性を正しく良き方
向に適用したい**」



💡 AI司書誕生のきっかけ

図書館との出会いは、ChatGPTが話題になり始めた頃でした。

- 一般社団法人Woolly(教育系ベンチャー)の中村が図書館でワークショップを開催

「若者が図書館に来ない。AIと組み合わせて何かできないか？」

この相談から、対話型のAI司書「SHIORI」が誕生
AIという新技術を入り口に、若者と図書館をつなぐ
本との出会いを、もっと気軽に楽しいものにする



10月24日
登壇します



AI司書SHIORI
を体験しましょう。

図書館で実際に行うワークを
体験していただきました。



Section 3

AI司書SHIORIの本質的価値と実績



AI司書「SHIORI」は単なる検索システムではありません。

対話を通じて利用者の潜在的な興味・関心を引き出す

OPACでは絶対に見つからない本との出会いを創出

「セレンディピティ」（偶然の幸運な出会い）をAIで意図的に生み出す



OPAC検索

明確な目的がある人向け

例：「村上春樹の新刊が読みたい」

目的が決まっている場合に最適

VS

AI司書 SHIORI

曖昧な気持ちから本を探す人向け

例：「なんか疲れた」「面白い本ない？」

自分でも気づいていない興味との出会い

SHIORIは司書の専門性と競合せず、異なる価値を提供します。

サービス	特徴	提供価値
ChatGPT等の汎用AI	図書館蔵書と連携なし	一般的な質問回答
他社の図書館AI	OPAC検索の拡張	既存利用者の利便性向上
AI司書 SHIORI	対話による興味発見	新規利用者開拓・新たな出会い

役割分担の明確化：

司書：深い知識と経験に基づく専門的レファレンス

SHIORI：対話による意外な発見の提供、セレンディピティの創出

導入実績と成果

2024年11月、小田原市立中央図書館「かもめ」でアバター型AI司書の実証実験を実施しました。

7日間 の実証実験期間

150名以上 の利用者数

多数 のメディア掲載

初めての本格導入となった本実験では、AIと図書館の新しい関係性に注目が集まりました。

「図書館×AI」の先進事例として、メディアでも取り上げられ、新しい図書館サービスの可能性を示すことができました。



L 全国ワークショップ展開実績

AI司書「SHIORI」の全国展開状況（2024-2025年）

15+ 実施ワークショップ回数

100+ 累計参加者数

📖 公共図書館（全国10館以上）

🏫 高等学校 2校

🏢 企業研修・セミナー

メディア実績

2025年8月3日：朝日新聞デジタルに掲載

2025年9月11日：朝日新聞紙面に掲載

司書向けイベント「L-1グランプリ」特別参加

朝日新聞社



中野東図書館での本格実証実験

2025年9月13日から10月13日の1ヶ月間、中野東図書館で本格的な実証実験を実施しました。

8階：読書・貸出フロア

本を借りる利用者向けの設置

利用傾向：書籍推薦、ジャンル探索が中心

ピーク時間帯：10時～13時頃



9階：コワーキングスペース

仕事や学習で利用する方向けの設置

利用傾向：専門書や参考資料の検索が多い

ピーク時間帯：14時～18時頃



👥 普段本を借りない層へのアプローチ

あえて「普段本を借りない層」をメインターゲットに設定しています。

明確な目的の利用者

OPAC検索を使いこなせる

「村上春樹の新刊」のように具体的に検索

既存のシステムで十分対応可能

曖昧な目的の方々

「なんとなく来た」

「久しぶりに本でも借りようか」

何を借りたいかはっきりしていない



🔍 図書館の新規利用者開拓

📈 図書館利用率の向上

📖 偶然の本との出会いを増やす

Section 4

デモンストレーション ～セレンディピティの創出～



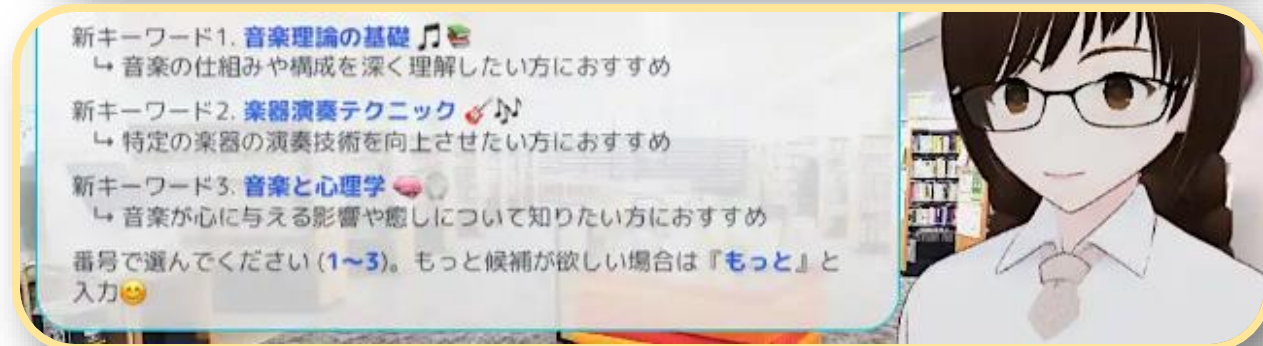
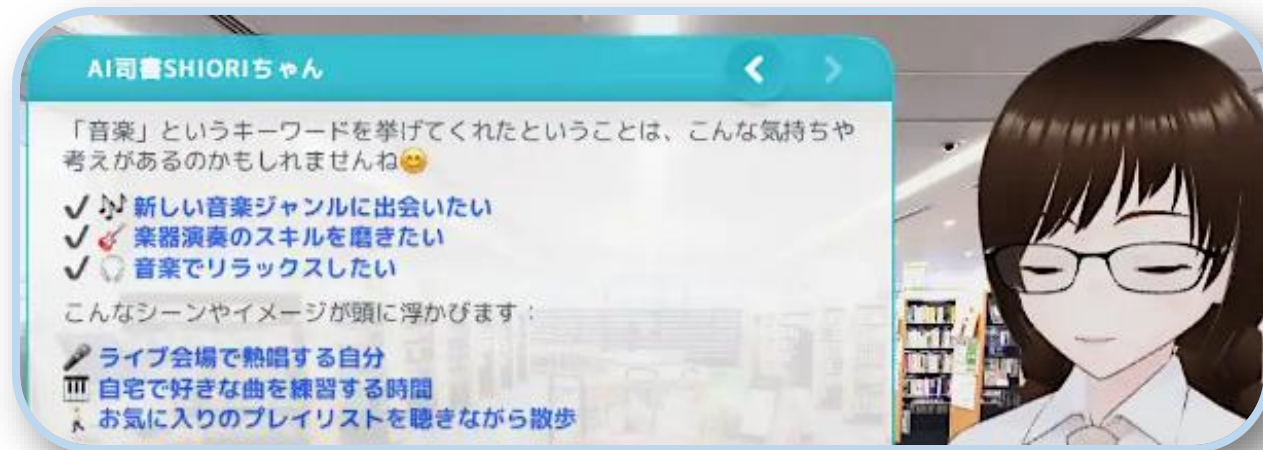
AIとの対話で生まれる「偶然の幸運な出会い」を実際に体験

SHIORIのデモ画面紹介

3Dアバターが利用者と対話しながら本を提案します

- 1 利用者が「音楽」などのキーワードを入力
- 2 AIが応答：「音楽について興味をお持ちなんですね。きっとこんな気持ちがあるのかもしれないね」
「音楽理論の基礎」
「楽器演奏テクニック」
「音楽と心理学」が興味あるのではないのでしょうか？
- 4 対話を通じて興味の方向性を深掘り
- 5 最終的に3冊程度の本を提案し、選定根拠を説明

普段は気づかないような偶然の本との出会いを創出します



収集したSHIORIのデータは図書館運営に様々な価値をもたらします。

🔍 検索キーワードの傾向

上位キーワード：季節・イベント関連の検索が増加

時間帯別の特徴：午前は実用書、夕方は文学・小説

週末と平日で明確な興味の差異が判明

💡 発見された傾向

実はビジネス書と料理本の相関性が高い

15時～17時は中高生の学習関連検索が急増

🔄 活用例

特集コーナー企画：検索トレンドを基に効果的な展示を設計

蔵書選定：実際に興味を持たれているジャンルの強化

イベント企画：検索されるが所蔵の少ない分野での講座開催

人員配置最適化：時間帯別の需要に合わせた司書配置

地域ニーズの可視化：自治体施策の参考データとしての活用

Section 5

司書の現実と新たな支援機能



現場司書の日常業務

全国の図書館を訪問し、司書の皆様からヒアリングした業務の実態：

日常業務の大半を占める定型対応

「今日は何時まで開いていますか？」（非常に頻繁）

「トイレはどこですか？」（何度も繰り返し）

「コピー機の使い方を教えてください」（毎日多数）

「WiFiのパスワードは？」（頻繁）



本来の専門業務への影響

🔍 レファレンスサービスへの時間不足

📖 専門的な資料紹介が後回しに

👥 利用者との深い対話が困難

「本当は利用者の知的好奇心に応える仕事がしたいのに、日々の定型対応に追われています」

- ある公共図書館の司書より

現場から「定型質問への対応もAIにお願いしたい」という要望からインフォメーション機能を開発中です。

インフォメーション機能（別の図書館での導入を検討中）

🕒 開館時間、休館日の案内

📍 館内施設の場所案内

📖 利用規則の説明

🎵 イベント情報の提供

これにより、司書の皆様が本来のレファレンス業務や利用者との深い対話に集中できる環境を作ります。



Section 6

Ⅳ 複合施設化する図書館の未来

✕ 複合施設が拓く新しい出会い

複合施設化は、単なる効率化ではなく、異なる目的で訪れる人々が偶然図書館と出会うチャンスを生み出します。

☕ カフェ併設の場合

「コーヒーを待つ間に手に取った本が、思わぬ興味を呼び起こす」

👨‍👩‍👧 子育て支援施設併設の場合

「子どもの絵本を借りに来たついでに、自分の趣味の本も見つける」

✂️ ものづくり工房併設の場合

「工作の参考にと技術書を探しに来て、別の分野の本に出会う」

武蔵野プレイス：図書館×市民活動支援×青少年スタジオ×カフェ

大和市文化創造拠点シリウス：図書館×芸術文化×生涯学習×子育て

岐阜市立中央図書館：図書館×市民活動交流×展示



⚠ 複合施設での新たな課題

複合施設化は、新たな専門外の課題を司書にもたらしています

ものづくり工房併設：「電動工具の使い方を教えてください」

美術館併設：「この技法について詳しく説明してください」

カフェ併設：「コーヒーの淹れ方の本はどこ？実演してほしい」

💬現場の声

「本の相談と工作相談を同時に受けて対応に困った」

「専門外の質問が増え、レファレンスの質が保てるか不安」



司書の専門性だけではもはや対応できない状況が生まれています。

✂ 複合施設課題への弊社AI応用事例

新潟県三条市の複合施設「まちやま」では、工具レンタル工房「まちやま道具箱」を図書館と併設しています

100種類以上の工具を貸し出していますが、図書館スタッフに工具に関する専門的な質問が寄せられる課題がありました

- 「この工具はどう使えばいいですか？」
- 「棚を作りたいのですが、どの工具を使えばいいですか？」



三条で生まれた道具の図書館
まちやま 道具箱

道具や工具を
借りてみよう

工具箱で貸出します

-借り方-

- 1 ボードから、借り
たい道具のカード
を選びます
- 2 1階カウンターに
借りたい道具のカー
ドと図書カードを
出し、手続き・
誓約書の記入を行
います。
- 3 専用ボックスに入
った道具を受け取
ります。(返却時
アンケートをご協
力をお願いします)

貸出し 1週間

start
6月1日(木)
15:00~

対象・三条市立図書館の利用カードを
お持ちの19歳以上の方

貸出し時間・9:30~20:00
貸出し点数・1点
貸出し期間・1週間

まちやま

✂ 複合施設課題への弊社AI応用事例

2025年10月より「**工具アドバイザー**しおり(見習い中)」を導入しました。

対話を通じて経験レベルを確認し、最適な工具セットを提案することで、司書は本来業務に集中でき、利用者も的確なアドバイスを受けられるようになりました



Section 7

地域をつなぐAIの将来構想



品「地域全体をつなぐAI」構想

複合施設内のAI活用から、施設の枠を超えた地域連携へ



歴史の本を借りた人に → 「この本に関連する特別展が、郷土資料館で開催中です」



工作の本を探している人に → 「実際に工具を使える まちやま工房 もありますよ」



育児書を借りた人に → 「来週、子育て支援センターで関連イベントがあります」



図書館のAIが地域の情報ハブとなり、文化施設、教育施設、コミュニティ施設をつなぐ。
本を起点に、リアルな体験へと人々を導く構想です。

現在は構想段階ですが、複数の自治体から関心をいただいています。

Section 8

教育分野への新展開：大学図書館

これからのセクションでは、AI司書SHIORIの大学図書館における新たな展開可能性について解説します。

ChatGPTで論文を「書く」のではなく、AIで良質な論文を「探す」という新しい価値を提供します。

大学図書館での新しいAI活用

現状の深刻な課題

ChatGPTで論文を書く学生が増加
コピペチェッカーでも検出困難
学習効果の低下が懸念される



SHIORIが提供する解決策

「AIで論文を書く」のではなく「AIで良質な論文を探す」

学生がSHIORIと対話することで

- ✓ 自分の研究テーマが明確になる
- ✓ 見落としていた重要文献を発見
- ✓ 新しい視点や方法論に出会う

結果として、オリジナリティの高い論文が書ける



大学版SHIORIの機能・活用例

大学版SHIORIの特別機能：

🔍 論文検索・推薦機能

📄 執筆者の最新研究追跡

🔗 引用文献の関連性マッピング

👤 研究テーマの類似研究者紹介

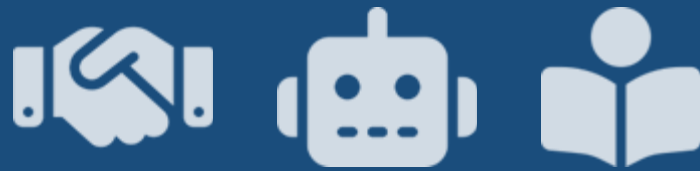
「これは単なる検索システムではない。学生の思考を深めるツールだ」
- 大東文化大学 関係者様より

大東文化大学（文学部の歴史文化学科）をはじめ、複数の大学図書館から導入検討中。
特に理工系大学を中心に、学習支援ツールとしての活用が期待されています。



Section 9

AIと司書が共創する未来



AIは司書の仕事を奪いません。むしろ、司書の価値を最大化します。

≡ 司書の負荷軽減

定型業務の削減
クレーム対応の精神的負担軽減
残業時間の削減に貢献

🧠 司書の能力拡張

専門知識を活かせる時間の増加
より深いレファレンスが可能に
利用者との対話の質が向上

👥 地域の活性化

施設間の連携強化
新規利用者の開拓
地域コミュニティの形成

私たちの考える図書館の未来： 司書と共に成長し、図書館の新しい価値を創造する



Section 10

■ クロージング：次のアクションへ ～具体的な導入ステップとお問い合わせ～→

本日お話しした内容にご興味を持っていただけた方は、ぜひブースでお話を聞かせてください。

 情報収集から - 資料をお持ち帰りいただくだけでもOKです

 デモ体験 - ブースでAI司書SHIORIを実際にお試しいただけます

 個別相談 - 貴館の課題や理想についてお聞かせください

導入までの具体的ステップ

導入は最短1ヶ月から可能です。まずは以下のステップでお進みいただけます：

- 1 本日：名刺交換・QR読み取り**
まずはご興味をお持ちいただけましたら、情報交換からスタートします
- 2 詳細打ち合わせ・お見積り**
貴館の環境や要件に合わせたカスタマイズ内容とご予算の調整
- 3 環境構築・テスト運用**
システム連携や設定、スタッフ向けの操作説明会の実施
- 4 本番運用開始・継続サポート**
運用開始後もアップデートやサポートを継続的に提供

例：導入決定から最速で2ヶ月程度で運用開始可能です（シンプルな要件の場合）

📱 デモ体験QRコード & 連絡先



デモ体験・相談予約

📱 デモ体験

相談予約



過去のワークショップ
実証実験の実績はこちら
(Wooly社 note)

♥ 最後のメッセージ

図書館は、日本の知的インフラです。しかし、多くの課題を抱えています。

AIは敵でも脅威でもありません。
正しく使えば、司書の味方になります。

今日お伝えしたかったのは、AIと図書館の可能性です。皆様の現場の声を、ぜひお聞かせください。

司書さんの負荷を減らし、能力を拡張し、地域をつなぐ。
この未来を、一緒に作りませんか？

合同会社SEKITOBA 代表取締役 藤村明人

✉ Email: afujimura0808@gmail.com

☎ Tel: 080-7967-2568

🌐 Web: <https://sekitoba.tech>



? 想定Q&A

よくいただくご質問とその回答をまとめました。その他のご質問はブースでお気軽にお聞きください。

Q 導入コストはどれくらい？

図書館の規模により異なりますが、お試し導入から段階的に始めることが可能です。詳細な費用は個別にご相談ください。

Q 既存システムとの連携は？

主要な図書館システムとのAPI連携実績があります。OPAC連携などの最小限の機能からスタートすることも可能です。

Q プライバシー対応は？

個人情報是一切取得せず、対話履歴も匿名化して統計利用のみです。総務省のAI利活用ガイドラインに準拠し、自治体のセキュリティポリシーに合わせた調整も可能です。

Q カスタマイズは可能？

キャラクター、話し方、推薦ロジックなど、貴館のニーズに合わせた調整が可能です。地域特性や館の特色を反映したAIにカスタマイズできます。

Q サポート体制は？

運用マニュアル提供、定期アップデート、リモートサポートを基本とし、必要に応じて現地サポートも対応します。導入後も安心してご利用いただけます。

Q ITに詳しくなくても大丈夫？

設定はすべて弊社が行います。電源を入れるだけで使えるシンプルな操作性を実現。IT知識がなくても安心して導入いただけます。